

第8章

都市下層民の価値観——三つの側面から

第1節 都市下層民の価値観——一番欲しいものを通じて

住民の価値観を知るために、家庭用品でいま何が一番欲しいものを見てみよう（質問表 質問36を参照）。

(イ) アンカラでは、最も欲しいものは（第一回答のみ）、カラーテレビ（24%）、洗濯機（19%）、冷蔵庫（21%）である。他の地区でもこの三つが最も欲しいものを形成する。逆に、掃除機、クーラー、ビデオなど最も欲しいものとしてあまりあげられなかった。不明層（23%）も高い。すべて所有しているためよりも、入手不可能であるためと推定できよう（第II-12表参照）。

(ロ) 地方大都市ガジアンテップでは、最も欲しいものは、中心地区の場合にはカラーテレビが著しく高く（40%）、次いで洗濯機（23%）、冷蔵庫（17%）である。また、周辺地区ではカラーテレビが最も高く（37%）、次いで洗濯機、冷蔵庫（ともに13%）である。不明層も存在する（13%、23%）。三つの指数のうち、テレビのコマーシャルに対する拒否反応は中心地区（2.25）よりも郊外地区で低いが、（2.08）入手不可能への対応と思われる、不明層は中心地区よりも郊外地区で高い。

(ハ) 新興工業都市メルシンでは、欲しいものが多様化している。郊外（農村風）地区セルジュク地区では、最も欲しいものは、カラーテレビ（26%）、冷蔵庫（20%）、ビデオ（14%）、洗濯機（9%）である。アンカラやガジアンテッ

ブではわずかだったビデオが、欲しいものにあげられる。準中心地区シテラル地区では、最も欲しいものは、カラーテレビ (30%)、洗濯機、冷蔵庫 (ともに20%) であるが、この地区でもビデオをあげた人が存在する (10%)。東南部地域からの流入者の多い郊外地区デミルタシュ地区では、メルシンの他の地区で最も高い需要があったカラーテレビは低くなり (17%)、逆に、洗濯機 (29%)、冷蔵庫 (23%) が高い。また、この地区でもビデオはやや低い (9%) けれども、欲しいものにあげられる。新興工業都市では、ビデオに象徴されるように欲しいものが多様化してしることと、不明層と「何もいらない」層が中都市以下の都市に比較して少ないことも (双方の合計で、11%、13%、9%) 特徴的である。

(イ) 伝統的な中都市トラブゾンでは、カラーテレビという娯楽関連品よりも、生活必需品である洗濯機が三つの地区全てで最も必要とされる。中心地区ザフェール地区では、最も欲しいものは洗濯機が最も高く (33%)、次いでカラーテレビ (23%)、冷蔵庫 (17%) である。「何もいらない」層は低い (10%)。富裕なエセンテッベ地区では、最も欲しいものは洗濯機 (26%)、冷蔵庫 (20%)、それにカラーテレビ (14%) であり、ビデオもわずかであるけれども (9%) 現われる。この地区でも、「何もいらない」層が23%と高い (アンカラの不明層と同じ比率)。理由としてすべて所有しているからという声もこの地区ではあった。専門職 (教員) の多い郊外地区バフチェジック地区では、最も欲しいものは洗濯機 (37%)、冷蔵庫 (26%) と高く、カラーテレビは少ない (11%)。また、「何もいらない」層は多くはない (14%、不明層3%)。

(ロ) 小都市ネブシェヒルの富裕な350エブレル地区では、最も欲しいものはカラーテレビ (24%)、冷蔵庫 (18%) であり、洗濯機は少ない (6%)。また、ビデオをあげる層も存在する (10%)。ただし、小都市ネブシェヒルでは「何もいらない」層が20% (不明層2%) を数え、他の地区よりも多い。

(ハ) 地方町ビュンヤンの中心地区でも、「何もいらない」層が多い (20%)。中心地区では最も欲しいものは、洗濯機 (32%)、カラーテレビ (28%) に集

中し、ビデオをあげる層もわずかながら存在する（4%）。比較的豊かな郊外地区でも、「何もいらない」層は多い（20%）。最も欲しいものは、カラーテレビが最も多く（32%）、冷蔵庫（16%）、洗濯機（12%）である。しかし、ビデオをあげる層は存在しない。

このように、家庭用電気製品への需要が地域と地区によって異なる。(イ)カラーテレビを欲しいものとして最もあげる地区は、首都アンカラ、地方大都市ガジアンテップ、新興工業都市メルシン（東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区を除く）、小都市ネブシェヒル、地方町の郊外地区の7地区である。(ロ)カラーテレビよりも生活に結び付いた洗濯機を最も欲しいものとしてあげる地区は、地方中都市トラブゾンの3地区、東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区、地方町の中心地区の5区である。(ハ)最新の電気製品であるビデオを最も欲しいものとしてあげる層が存在する（10%以上）地区は、新興工業都市メルシンの2地区、地方中都市トラブゾンの一つの中心地区、小都市ネブシェヒルの専門管理職の多い350エブレル地区である。

第2節 都市下層民の価値観——娘の夫に必要な条件を通じて

娘の夫に必要な性格に「よい性格」をあげる人がどの地区でも圧倒的に多い（第Ⅱ-13表、質問表 質問41を参照）。よい性格をあげる人はアンカラで多く（76%）、地方大都市ガジアンテップや新興工業都市メルシン（郊外地区セルジュク地区を除く）では、アンカラよりも低い。これに対して、中都市トラブゾン（中心地区ザファール地区を除く）以下の都市や町では、よい性格をあげる人が多くなる（第Ⅱ-16図、折れ線1参照）。よい性格を最もあげるのは、トラブゾンの郊外地区バフチェジック地区である（91%）。

娘の夫に必要な性格として、「よい性格」に次いで、「よい職業」、「収入と富」、「よい教育」をあげる人が多い（第Ⅱ-13表参照）。

(イ)よい職業を第2にあげる地区は、アンカラ（よい職業10.7%、よい教育

9.3%、以下同じ)、新興工業都市メルシンの準中心地区シテラル地区(13.3%、教育0%)と、東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区(20.0%、教育11.4%)である。

収入と富の率と同じではあるが、よい職業を第2位にあげる地区は、地方中都市トラブゾンの豊かな中心地区エセンテッペ地区(5.7%、収入と富5.7%)と地方町ビュンヤンの豊かな郊外地区(8.0%、収入と富8.0%)である。言いかえると、よい職業を第2位にあげる地区は、首都と新興工業都市の準中心地区などが典型的な地区であり、次いで、中都市や地方町の豊かな地区である。なお、トラブゾンのもう一つの中心地区ザフェール地区ではよい職業をあげる人は多いけれども(6.7%)、第2位には収入と富(10.0%)があげられる。

(ロ)よい教育を第2にあげる地区は、地方大都市ガジアンテップの中心地区である(よい教育5.0%、収入と富5.0%)。

(イ)収入と富を単独で第2位にあげた地区は、地方大都市ガジアンテップの郊外地区(13.3%)、中都市トラブゾンの中心地区ザフェール地区(10.0%)、地方町の中心地区(12.0%)である。アンカラでも収入と富は第3位ではあるが高い(9.3%)。これらの地区は、それぞれガジアンテップの中心地区、トラブゾンの豊かなエセンテッペ地区、ビュンヤンの豊かな郊外地区に比較すれば低収入の地区である。低収入の地区では、収入と富を娘の夫の条件に掲げる人が多いといえよう。

なお、中都市トラブゾンの二つの中心地区は、他の地区とは異なって、第4位の性格として「宗教熱心」をあげた(6.7%、5.7%)。

次に、よい性格の意味するものをいま少し詳しくみておこう。

よい性格の資質とは何か(働き者であること、親類との関係を大切にする、近隣との関係を大切にする)から二つを選択してもらった。その他の内容は、正直であること、宗教的であること、道徳的であることなど、多様な意見があげられた。二つ聞いたうちの第一の回答は次のようである(第II-14表参照)。

12地区のうち、よい性格とは「誠実であること」を第1にあげた地区が9地区と最も多く(後述)、「近隣関係を重視すること」を第1にあげた地区は2地区(地方大都市ガジアンテップの中心地区, 25.0%, 地方町ビュンヤンの郊外地区, 32.0%),「親族関係を第一に大切にすること」をあげた地区は1地区(新興工業都市メルシンの準中心地区シテラル地区, 33.3%)である。

よい性格とは誠実であること(第II-16図参照, 折れ線5)を第1にあげた9地区は, 次のとおりである。アンカラでは高く(38.7%), 地方大都市ガジアンテップの郊外地区(37.1%), 新興工業都市メルシンの郊外(農村風)地区セルジュク地区(40.0%)と東南部からの流入者の多い郊外地区デミルタシュ地区(36.7%), 中都市トラブゾンの3地区である(40.0%, 42.9%, 48.6%)。それにネブシェヒルの小都市の350エブレル地区(32.0%)と地方町ビュンヤンの中心地区(36.0%)である。

よい性格として、「親族関係を重視する」か、「近隣関係を重視する」かに関して各地区をみてみよう。

(イ)「親族関係」を「近隣関係」よりも重視する地区(折れ線3が折れ線4より上にある地区)。

アンカラ(21.3%, 近隣関係16.0%), 新興工業都市メルシンの3地区(25.7%, 33.3%, 31.4%, 近隣関係17.1%, 23.0%, 5.7%), また, トラブゾンの3地区(23.3%, 22.9%, 20.0%, 近隣関係20.0%, 11.4%, 20.0%)である。なかでも, 新興工業都市の東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区(31.4%, 近隣関係5.7%)と著しく「親族関係」を重視する。首都アンカラの他に, 新興工業都市メルシンの3地区と中都市トラブゾンの3地区(郊外バフチェジック地区は同じ)の合計7地区は, 一様に「近隣関係」よりも「親族関係」を重視するのである。

(ロ)「近隣関係」を「親族関係」よりも重視する地区(第II-16図において折れ線3が折れ線4より下にある地区)。

伝統的工業都市ガジアンテップの中心地区と郊外地区(25.0%, 20.0%, 親族関係20.0%, 16.7%), 小都市ネブシェヒル(28.0%, 親族関係24.0%)

や地方町ビュンヤンの2地区(24.0%, 32.0%, 親族関係20.0%, 8.0%)である。伝統的大都市や小都市と地方町では、中心地区でも郊外地区でも「親族関係」よりも「近隣関係」を重視する人が多い。

この他に、よい性格とは「働き者」(折れ線2参照)であることをあげる人もかなり存在する。「働き者」をあげる人の多い地区は、アンカラ(16.0%)、地方大都市ガジアンテップの郊外地区(20.0%)、新興工業都市メルシンの東南部からの流入者の多いデミルタシュ地区(17.1%)、中都市トラブゾンの二つの中心地区(10.0%, 14.3%)の5地区である。さらに、地方町の中心地区と郊外地区である(12.0%, 16.0%)。このうち五つの地区では、「働き者」がよい性格の第3位にあげられ、二つの地区、すなわち、トラブゾンのザフェール地区(10.0%)、と地方町の中心地区(12.0%)では、第4位にあげられることになる。アンカラを郊外地区と見なせば、郊外地区の住民(5地区のうち4地区)はよい性格として「働き者」を第3位にあげ、第3位にあげる地区は中心地区においては、豊かな中心地区エセンテッペ地区のみである。他の二つの中心地区では「働き者」は第4位にあげられる。

娘の夫に期待するよい性格とは、「宗教的」であると主張する人は存在するけれども、多くはない。アンカラ(1.3%)、新興工業都市メルシンの準中心地区シテラル地区(3.3%)、メルシンの東南部からの流入者の多い郊外地区デミルタシュ地区(5.7%)、地方中都市の中心地区ザフェール地区(3.3%)、専門管理職の多い郊外地区バフチェジック地区(5.7%)、地方町の中心地区(4.0%)である(宗教に関しては第II部第9章参照)。

第3節 都市下層民の価値観——成功の条件を通じて

1. 成功の二つの条件

成功の条件とは何か、次の選択肢(金持ち、教育、コネ、働き者、冒険心、チャ

ンス、その他)から二つを選択してもらった(質問表 質問43を参照)。成功の条件として最初にあげられた第一の回答を整理する。準備した六つの条件は、三つに大きく分かれる。a) 業績的な近代的要件として働き者と教育, b) 属性的な伝統的要件として金持ちとコネ, c) 偶然的な伝統的要件としてチャンスと冒険心である(第Ⅱ-15表参照)。

a) 業績的で近代的要件である「働き者」は首都アンカラで高い(42.7%)。「働き者」がアンカラとほぼ同様かそれ以上に高い地区は、アンカラを含めて7地区である。新興工業都市メルシンの郊外(農村風)地区セルジュク地区(42.9%), 中都市トラブゾンの3地区(40.0%, 40.0%, 42.9%), 小都市のネブシェヒル(42.0%), 地方町の2地区(48.0%, 60.0%)。成功の条件としての「働き者」という近代的な要件は、首都と中都市以下の都市で重視される。

もう一つの業績的で近代的な要件である「教育」は、アンカラでは「働き者」ほど高くはないけれども高い(29.3%)。「教育」がアンカラとほぼ同様かそれ以上に高い地区は、アンカラを含めて6地区である。地方大都市ガジアンテップの郊外地区(26.7%), 新興工業都市メルシンの郊外(農村風)地区セルジュク地区と準中心地区シテラル地区(25.7%, 23.3%), 中都市トラブゾンの豊かな中心地区エセンテッペ地区と専門管理職の多いバフチェジック地区(34.3%, 28.8%)である。成功の条件として「教育」という近代的な要件は、第1に、地方町や小都市を除く、中規模以上の都市で重視される。第2に、首都や新興工業都市という新たな都市で重視され、新興工業都市メルシンの地区でも東南部からの流入者の多いデミルタシュ地区では重視されない(14.3%)。また、中都市トラブゾンの地区でも豊かなエセンテッペ地区(34.3%)や高学歴のバフチェジック地区(28.6%)では重視されるが、伝統的な中心地区ザフェール地区(13.3%)では重視されない。同様なことは、伝統的な地方大都市ガジアンテップにもいえ、伝統的な中心地区(17.5%)では重視されないが、郊外地区(26.7%)では重視されるのである。

b) 属性的で伝統的要件である「金持ち」は、アンカラでは第3位でそれほ

ど高くはない(14.7%)。「金持ち」がアンカラよりも高い地区は、地方大都市ガジアンテップの郊外地区(20.0%)、メルシンの準中心地区シテラル地区(23.3%)、それに地方町ビュンヤンの中心地区(16.0%)である。多くの地区ではアンカラよりも低い。

もう一つの属性的で伝統的要件である「コネ」は、アンカラでは低い(4.0%)。地方町の中心地区を除いて、地方の調査地区では一様にアンカラ以上に成功はコネによると見なされる。とくに、伝統的大都市ガジアンテップの二つの地区(ともに10.0%)と新興工業都市メルシンの二つの郊外地区(8.6%、14.3%)では高い。なかでも、東南部からの流入者の多いデミルタシュ地区ではとくに高い。地方町の郊外地区でも高い(8.0%)。成功の条件として「コネ」という伝統的要件は、絶対的にはそれほど高くはないけれども、第1に、伝統的大都市では重視され、第2に、大都市以外の都市の郊外地区では重視される。しかし、こうした郊外地区でも、専門管理職の多い二つの地区(トラブゾンの郊外地区バフチェジック地区(5.7%)と小都市ネブシェヒルの350エブレル地区(6.0%)を除く)では、「コネ」を成功の条件とみる層は比較的少ない。

c) 偶然的な伝統的要件である「冒険心」は、成功の条件として、新興工業都市メルシンの2地区でごくわずかみられるにすぎない(セルジュク地区2.9%、シテラル地区3.3%)。もう一つの偶然的で伝統的な要件である「チャンス」は、アンカラでやや低いが存在する(8.0%)。アンカラ以外では、伝統的中央大都市ガジアンテップの2地区ではアンカラより高く(17.5%、10.0%)、新興工業都市メルシンで東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区で著しく高い(31.4%)。また、中都市トラブゾンの郊外地区バフチェジック地区と小都市ネブシェヒル350エブレル地区でもアンカラより高い(8.6%、14.0%)、地方町ビュンヤンの中心地区でも高い(16.0%)。成功の条件として「チャンス」という偶然的で伝統的な要件は、第1に、地方大都市の中心地区、第2に、地方町の中心地区で高く、とくに東南部地域からの流入者の多い郊外地区デミルタシュ地区では著しく高い。

2. 成功の源はどこに存在するか

成功源はどこで最も見いだすことができるかという質問に対して、村で、町で、都市で、この都市（町）で、大都市で、外国で、その他を選択肢として用意した（質問表 質問 43 の追加質問を参照、また結果は、第Ⅱ－16 表参照）。その他と回答をした人には自由回答とした。1986 年の 4 都市調査に関してこの質問を用意したので、85 年に調査したアンカラとガジアンテップに関してはデータがない。

(イ) 成功の源が農村にあると回答した層は少ない。この回答が比較的多い地区は、新興工業都市メルシンの東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区 (11.4%)、トラブゾンの郊外地区バフチェジック地区 (8.6%)、小都市ネブシェヒルの 350 エブレル地区 (12.0%) である。逆に、地方町の 2 地区では村にあると答える層は存在しない。

(ロ) 都市にあると回答した層は多い。メルシンの準中心地区シテラル地区と東南部からの流入者の多いデミルタシュ地区ではほぼ半数を占め (50.0%, 42.9%)、中都市トラブゾンでも豊かな中心地区エセンテッペ地区と専門管理職の多いバフチェジック地区ではかなり多い (ともに 31.4%)。これに対して、小都市ネブシェヒルや地方町ではほとんど、この回答はない (0%, 4.0%)。ただし、小都市や地方町では大都市にあると答えた層がきわめて多い (60.0%, 60.0%, 48.0%)。小都市や地方町において大都市でと回答した意味と、メルシンなどでこの都市でと回答した意味は似ているともいえよう。

(ハ) 大都市にあると回答した層は、すでに述べたように、小都市や地方町で著しく高く、中都市でも比較的高い (16.7%, 31.4%, 31.4%)。新興工業中大都市メルシンでは、成功の源が大都市にあると限定した層は準中心地区シテラル地区で高い (26.7%) けれども、他の 2 地区は低い (ともに 17.1%)。

(ニ) 「この都市」と自分の居住する都市と回答した層は、中都市トラブゾンの中心地区ザファール地区(13.3%)、郊外地区バフチェジック地区(5.7%)にみられ、この他に3地区に限られその比率も低い(3.3%, 2.0%, 4.0%)。

(ホ) 成功の源を外国にある回答とした層は、メルシンではデミルタシュ地区(20.0%)、トラブゾンでは二つの中心地区(20.0%と17.1%)、地方町の中心地区(16.0%)で多い。これに対して、準中心地区シテラル地区(6.7%)と小都市ネブシェヒルの350エブレル地区(6.0%)では、成功の源が国外にあるとはそれほど見なしていない。

(ヘ) 成功の源はどこでも同じと回答する層は、メルシンの郊外(農村風)地区セルジュク地区(40.0%)、トラブゾンの中心地区ザファール地区(23.3%)、ビュンヤンの郊外地区(24.0%)に典型的にみられる。

都市下層民は、成功の源の存在する地域をどのようにみているのかをまとめてみよう。

a) 成功の源の存在する地域は、「どこでも同じ」と最も見なす地区(20%以上)、3地区。

新興工業都市メルシンの郊外(農村風)地区セルジュク地区(どの地域でも同じ、40.0%)、中都市トラブゾン中心地区ザファール地区(同23.3%)、地方町ビュンヤンの郊外地区(同24.0%)である。この三つの地区のうち、ザファール地区は農村で(3.3%)、町で(6.7%)、都市で(10.0%)、この都市で(13.3%、他の2地区5.7%以下)、大都市で(16.7%)など、成功の源が都市や大都市にだけ存在するのではなく、均等的に存在すると見なす。とくに、「この都市」でと居住都市をあげた比率は、すでに述べたように最も高い。しかし、成功の源が外国に存在するともみるのである(20.0%)。ザファール地区は、成功の源に関して外国を志向するけれども均等主義的な見方をする地区である。

これに対して、新興工業都市メルシンのセルジュク地区も、成功はどの地域でも同じが最も高い(40.0%)。しかし、農村で(2.9%)、都市で(25.7%)、大都市で(17.1%)、外国で(11.4%)など、ザファール地区より

も都市に成功の源をみるし、「この都市」にあるとは見なさない。また、成功の源はどこでも同じが高い(24.0%)地方町の郊外地区は、成功の源を「この町に」存在するとわずかに見なす(4.0%)けれども、ほぼ半分は成功の源が大都市にあると見なし(48.0%)、成功の源を均等的にはみしていない。

b) 成功の源の存在する地域は、「どこでも同じ」とはあまり見なさない地区(10%代)、3地区。

中都市トラブゾンの豊かな中心地区エセンテッペ地区、小都市ネブシェヒルの350エブレル地区、地方町ビュンヤンの中心地区である。350エブレル地区は、農村で(12.0%)、都市で(6.0%)、「この都市」で(2.0%)、大都市で(60.0%)、外国で(6.0%)など、農村ととくに大都市に成功の源をみる。農村にも成功の源をみる比率は、新興工業都市メルシンで東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区(11.4%)と並んで最も高い。また、トラブゾンの豊かなエセンテッペ地区は、農村で(5.7%)、都市で(31.4%)、大都市で(31.4%)と、都市と大都市に成功の源をみており、外国にも成功の源を多くみる(17.1%、第3位)。地方町の中心地区は、町で(4.0%)がわずかに存在するとはいえ、農村に成功の源はないとし、成功の源を大都市に集中的にみる地区である(60.0%)。同時に、高い比率で外国にも成功の源をみる(16.0%)。

c) 成功の源の存在する地域は、「どこでも同じ」とは見なさない地区(10%未満)、3地区。

新興工業都市メルシンの準中心地区シテラル地区、郊外地区デミルタシュ地区、中都市トラブゾンの郊外地区バフチェジック地区である。中都市の郊外地区バフチェジック地区は、成功の源はどこでも同じと見なさないけれども、実際には、農村で(8.6%)、町で(5.7%)、都市で(31.4%)、「この都市で」(5.7%)、大都市で(31.4%)とし、外国を成功の源とはわずかしか思わない(8.6%)。郊外地区バフチェジック地区は、成功の源として外国を志向せず、成功の源は均等的に存在するとみなす地区である。

新興工業都市の郊外地区で東南部からの流入者が多いデミルタシュ地区

は、農村で(11.4%)、都市で(42.9%)、大都市で(17.1%)となり、すでに述べたように、農村に成功の源を比較的多くみるけれども、都市にも多くをみているし、9地区の中でザファール地区と同様に、最も多く外国に成功の源をみる(20.0%)。また、準中心地区シテラル地区は、農村で(6.7%)、都市で(50.0%)、大都市で(26.7%)と都市に成功の源をみている。この地区は、ネブシェヒルの350エブレル地区と同様に、成功の源を外国には最もわずかししか見なさないという特徴を有する。

成功の源を農村から大都市まで均衡的に存在すると考え、また、「この都市に」成功の源が存在すると考える地区は、中都市トラブゾンで専門管理職の多い郊外地区バフチェジック地区と同じくトラブゾンの中心地区ザファール地区であるといえよう。